



## — 職人の手仕事 左官の世界 —

四季工房の家づくり、3~4か月にわたる木工事が完了した後、大工さんからバトンを受け継ぐのが左官屋さんだ。壁や天井に漆喰をていねいに施していく、いわゆる“仕上げ工事”が、ここから約1週間かけて行われる。

コテさばきの音だけが聞こえる、静かな作業だ。

漆喰の白が柱や梁、枠などの木部を際立たせ、次第に室内の輪郭が明確になっていく。光と影の織りなす、やわらかな白の世界。

「このまま、何も足したくない」と感じるほど美しいが生まれる瞬間だ。



左官も、自然素材を活用した日本の伝統的な建築文化を支えてきた職人技として、2020年12月にユネスコの無形文化遺産に登録されました。



## — こんなにスゴイ！漆喰の効果 —

四季工房の家は自然素材の漆喰の壁。だから、ホルムアルデヒドなどの有害物質もなし！シックハウスになる心配もありません。

調湿

消臭

しつくいの表面にはスponジ状の無数の小さな孔が空いています。この孔が、湿度の高いときには水分を吸いこみ、低い時には水分を放出して、四季を通じて室内を快適な湿度に保ちます。さらに、この小さな孔には、生活で発生する臭いを取り込み、消臭する働きもあります。



環境

しつくいは自然サイクルに従って元の石灰石に還っていく循環型の材料。壁などに塗られたしつくいは、室内のCO<sub>2</sub>を取り込みながら徐々に硬化ていき、最終的には1平米当り約600gの炭酸ガスを取り込みます。  
(500mlペットボトル換算で約664本分)

不燃

燃えにくい素材で、不燃材料として建築基準法でも認められています。万が一、火災になってしまって、ビニールクロスのような有毒ガスの発生も一切ありません。

抗菌

主原料の消石灰は強アルカリ性。ウイルスやカビの発生・増殖を抑え、清潔な室内環境を保ちます。

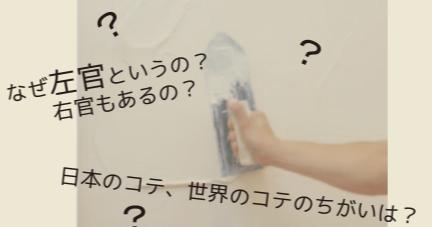
## — 職人さんたちにきいてみた。手仕事の流儀。 —

どんなに工期が押しても、間に合わせるよ。でも手は抜かない。左官の仕事は時間との勝負。天気や温度・湿度によって仕上がりに違いがある難しさもある。でもそこが腕のみせど、うもある。昔から変わらないのは手で仕上げること。もちろん便利な機械や道具はどんどん登場するけれど、最後は直に手で触って確認する。それは千年前と同じなんだ。

現在、四季工房の家づくりに携わる左官屋さんは十社。皆さん、ていねいで美しい、そんな左官職人さんの仕事との向き合い方、きいてみました。



### 調べてみよう！



最近は自然素材の漆喰が見直され、左官の世界にもまた目が向けられるようになってきた。左官の仕事そのものに魅力を感じて、この世界に飛び込む若い人も少しずつ増えている。女性の左官職人も活躍する時代になつたよ。



## 愛すべき道具たち — 鎏 —

鎔の歴史は古く、奈良時代の仏教伝来に遡ります。時を経て、日本独自の左官が発達し、江戸時代にはウダリ壁やナマコ壁など、「用と装飾の美」を兼ねた左官技術が花開きます。

世界でも群を抜く鎔の種類がある日本、日本人の細やかな仕上げ技術への探究が、たくさんの鎔を生み出しているのではないでしょうか。



今では珍しくなった、コテ供養。毎年、正月に神主さんを呼んで、手入れしたコテを並べて、祝詞をあげもらいます。そこには、道具と先祖への感謝の念が込められています。

## — 漆喰だけじゃないよ。左官の仕事いろいろ —

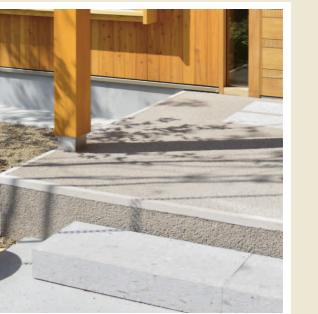
左官の起源は縄文時代、竪穴式住居の壁、土壌を作ったのが始まりと言われています。

今日も、床や壁を平らかに仕上げる作業全般が左官の仕事です。そして、そのほとんどが、機械ではなく、人の手で仕上げます。

「変わらず、手仕事しかできないことがある」それが、なによりも嬉しく、誇らしく感じられます。四季工房の職人さんも、内装・外装問わず、丁寧な仕上げで良質な家づくりを支えています。



土間の洗い出し（真鍮目地）



玄関仕上げ洗出し（一部天然石埋め込み）

玄関アプローチ（段鼻コテ押え）